

Mini-Cogで評価された認知機能低下は心不全患者の再入院に影響を与えるか。

へのご協力のお願い

(研究目的)

高齢心不全患者は心不全非合併の患者と比べ1.6倍の認知機能低下リスクがあり、認知機能障害はQOL低下や死亡率の上昇と相関があると報告されています。繰り返す心不全再入院は身体機能も低下させるため、再入院予防が重要です。しかし、認知機能低下が併存すると疾患管理に影響をきたします。本研究の目的はMini-Cogという時計描写テストと語想起で構成される、比較的短時間で認知機能低下をスクリーニング用い、心不全患者の予後と認知機能低下の関係を明かにすることです。

(研究対象)

当院に心不全の診断で入院加療し、心臓リハビリテーションの介入を行った65歳以上の高齢心不全患者を対象とします。

(研究期間)

2019年6月1日～2021年6月1日

(研究方法)

後ろ向き研究でMini-Cogで評価した認知機能低下群と対照群に分類し、退院からの心不全の増悪期間を調査します。Logrank検定、Cox比例ハザード分析にて認知機能低下と予後との関係を分析する予定です。本研究は後方視研究であり、通常診療において過去の試料を用いるため、侵襲を伴わず介入を行わない観察研究である。そのため、患者への負担はありません。本研究は人を対象とする医学研究に関する倫理指針に則り、あらかじめ情報を通知・公開い研究対象者等が拒否出来る機会を保證する方法とします。

(その他)

本研究は通常診療内で行われるため、研究に参加することによる患者の費用負担は発生しません。また本研究において利益相反状態はありません。

(問い合わせ先)

松江赤十字病院

<診療科>リハビリテーション課

<役職等>理学療法士 <氏名>須山竜二

電話番号 0852-24-2111 (代表)

対応時間 平日 8:20~16:50